

## 2023年4月19日（金）～4月21日（日） 石鎚山（1982m）登山&松山、高知観光

今日は、石鎚山登山

快晴とまではいかないものの、夕方くらいまでは雨は降らないとの天気予報である。実にラッキーです。下山後は高知に向かいますが、途中中津溪谷を散策して「仁淀ブルー」に巡り合いたいと期待を膨らませています。そこまで天気が持てば、これ以上の幸運はありません。

高知では、「カツオのたたき」を腹いっぱい食べる計画です。現地に明るいS社OBである今村さんの推薦する店なので間違いがあろうはずがありません。楽しみな一日が始まりました。 レポート：吉松

2日目；4月20日（土） 曇り 夕方より雨 石鎚山登山、中津川溪谷散策 そして、カツオのたたき  
早起きして、早朝の道後温泉を散歩した。昨夜は賑わっていた道後温泉街も流石に人は少ない。



6時前にもかかわらず、既に道後温泉本館入口前には入浴の為に客が並んでいた。



昨日入った椿温泉も今は閑散としていた。



2017年創業の道後温泉別館「飛鳥乃温泉（あすかのゆ）」

「椿の湯」に隣接している。  
内装などが凝った作りになっているので、機会があれば一度は入ってみたいものだ。



昨夕、腹いっぱい食べて飲んだ郷土料理「金兵衛」前も静かなものだ。

朝食は、昨夜ローソンで買い求めておいたパンやおにぎりで済ませた。  
6時にロビーに集合、すぐに石鎚山土小屋（つちごや）に向けて出発する計画だ。



ホテルパティオドウゴ玄関  
6時に4人が集合してすぐに出発した。

早朝の松山市内は未だ走っている車が少なく、運転も楽で爽快であった。  
面河溪（おもごけい）に近づき、そこから石鎚スカイラインに入ろうとしたら、ナビが愚図ついた。  
盛んにナビがその道は行くなと言う。スカイライン入口は7時を過ぎて開門しているので問題がなさそうなのだが、何度も行くなと言う。無視してどんどん進んでいったら、いよいよナビの機嫌が悪くなりまともに反応しなくなった。あのひねくれようは何なのだと、4人で話し合ったくらいだ。

勿論何の支障もなく車は走り、予定時刻の8時に土小屋に到着した。  
石鎚神社土小屋遙拝殿で、登山の無事を祈って登山を開始することにした。



土小屋駐車場で登山準備  
駐車している車はまばらであった。





石鎚神社土小屋遙拝殿

登山の無事を祈った。



遙拝殿から1，2分の所に登山口がある。

登山口入り口で集合写真



8時10分、登山開始

男性陣よりも大分若い女性陣2人は足腰達者で、常に先頭にあって我々のリード役になってくれた。





暫くはアップダウンの少ない道を歩いた。石鎚山の登山道は良く整備されている。

8時40分、第1ベンチで小休止

ここでは、高い松の木の間から個性的な頂上の形をした石鎚山を遠望することが出来た。  
登山道からでは、ここから見る石鎚山は絶景なのだそうだ。



未だ5月の連休前ということもあってか、登山者は少ない。水補給をしながら暫し休憩した。

**\*根岸さんの水騒動\***

根岸さんが土小屋駐車場でレンタカーから降りるときに、ザックに差し込んでいたはずのペットボトルを落としてしまったらしい。根岸さんの携行の水は、小さなボトル（200cc位？）だけになってしまった。登山中は、他の3人が少しずつ分けてあげて急場をしのぐことにした。

根岸さんの小さなボトルに水補給をしてあげるたびに、いつの間にか根岸さんに分が悪くなり、3人への倍返し、三倍返しが必要な雰囲気になってきた。 **根岸さん、お気の毒さま！**





第1ベンチから第2ベンチへ

熊笹の生い茂る緩やかな傾斜の登山道をゆっくりと登る。

山裾では木々の新緑が萌え始めていたが、少し高い標高の所では未だ新芽がやっと出始めている位であった。また、登山道ではほとんど花を目にすることは出来なかった。(以下は数少ない花の写真)



ショウジョウバカマ



スマレ



9時少し前、第2ベンチに到着





第2ベンチから第3ベンチへ

木の間から、時々険しい山頂の石鎚山が見える。



9時20分 第3ベンチに到着  
土小屋からちょうど3Km、山頂へは1.6Kmの地点である。



第3ベンチでは、写真(↑)に写っている3人の地元登山者が、ここから先の登山道のことを色々教えてくれた。「鎖場は全長65m。二の鎖は足の置場を考えながら登るので、三の鎖より難しい。三の鎖はただ登るだけ」「鎖場には巻き道もある」など、何度も登っている人達らしく、詳しくアドバイスをしてくれた。我が女性2人は、益々鎖場に挑戦する気になってきたようだ。



第三ベンチからは、少し勾配がきつくなってきた。しかし、石鎚山の登山道は良く整備されていて、安心して登ることが出来る。



9時50分 石鎚神社大鳥居に到着  
鳥居の階段を上ったところが「二の鎖元」





「二の鎖元」で、ここからの急登に備えて小休止

「二の鎖元小屋」は閉まっていたが、「公衆トイレ」は使用することが出来た。



「日本一美しい山のトイレ」を目指しているようだ。4月15日から利用可能になっていた。↓



しっかり体調を整え終えたところで、ここからの山頂への急登に向かった。

若い女性二人は「二の鎖」に挑戦（写真左）、70代の男性2人は巻き道を利用（写真右）することにした。



「二の鎖」にチャレンジする女性2人

足をかけられる鎖なので、岩の足の置き場と鎖の足用のわっかを使いわけて、考えながら登るのがなかなか面白かったとのこと。

それでも、「二の鎖」を登り切ったら両腕がプルプル

みせん 弥山から天狗岳までのナイフリッジを歩くための余力を残すために、「三の鎖」は諦めて巻道で男性陣と合流することにしたそうだ。

2人からは、「三の鎖回避が今回の登山で唯一の心残り」とのコメントをもらった。「クマ女」恐るべし！





男性2人は、急登とはいえ整備された階段に助けられながら登ることにした。



「二の鎖」を登りきったところで、「三の鎖」をパスした女性二人と合流  
10時40分に頂上（<sup>みせん</sup>弥山）に無事到着



頂上に鎮座する石鎚神社

無事にここまで登れたことに感謝

「四国霊峰 石鎚山」の標示板前でクマさん旗を翻した。





頂上（<sup>みせん</sup>弥山）までは来たものの、問題は山頂（最高峰天狗岳 1982m）まで行くかどうかだ！  
痩せ尾根が目の前に続いている。



問題の痩せ尾根！

12年前に登った時、石井さんが岩場から下を覗き込んでしまって、突如スパイダーマンになった痩せ尾根！

でも、たった15分で行ける痩せ尾根！

根岸さんはサッサと行かない判断・・・素早くて良い判断だった。

女性2人は、最初から行く気満々

吉松は躊躇したものの、今回の計画者の沽券と、怖いもの体験したさで挑戦することにした。

＝大きなミスメイク＝

昨晚食事を一緒にしたS社OBの永井さんが、「かつては有った熊笹に覆われた巻き道が、植生保護の為に使用不可になっている」とのアドバイスをしてくれたことをすっかり失念していた。

歩き始めて、巻き道が利用できないことを思い知った。

まず、<sup>みせん</sup>弥山から鎖を使って10m近く下って、そこから痩せ尾根を伝って行く。少々横風もある。  
こんな写真（↓）を中島さんが良く撮ってくれたものだ。強い横風が吹けば、お陀仏だ！



吉松は、心臓パクパク

ほとんど、ちびりそうだった。（いや、少々ちびったかもしれない。）

中島さんからは、吉松がへっぴり腰だったと見下された。

中島さん、服部さんは、度胸がある。

三の鎖を登らずに、腕力を温存しておくという先見の明もある。

「クマ女」、いよいよ恐るべし！！





11時4分、何とか到着した。

石鎚山最高峰 天狗岳（1982m）

（この写真は、偶々同じ時刻に山頂に居た若者がシャッターを押してくれた。）



我々3人が天狗岳に立っているのを、<sup>みせん</sup>弥山から根岸さんが撮ってくれた。



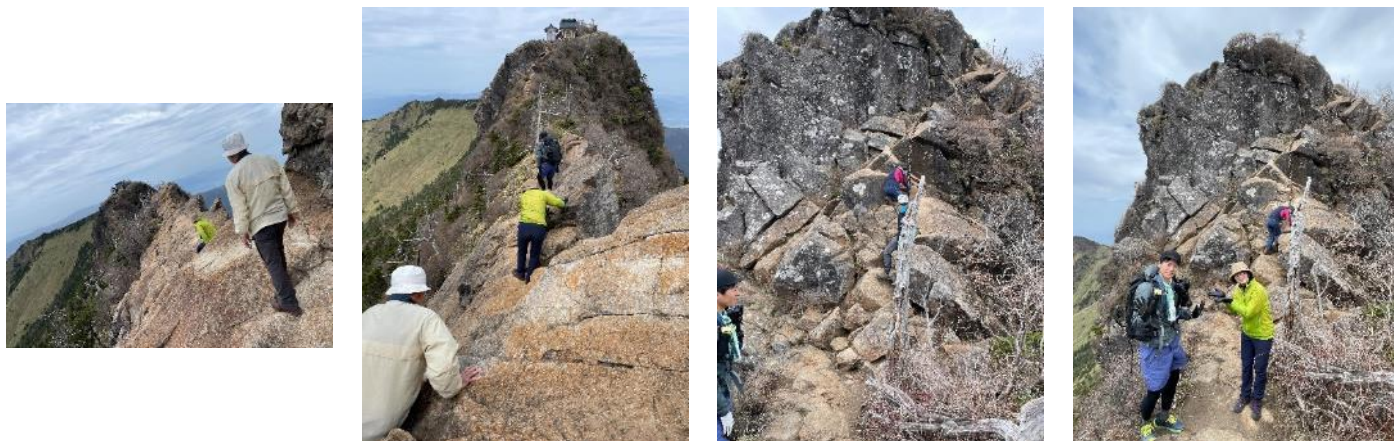


さて、頂上から<sup>みせん</sup>弥山への戻りはどうなるか？

ちびった吉松は、通行止めになっている熊笹の巻き道を強引に通ろうとしたが、中島さんにダメ出しを食らった。「植栽保護をしているところを通ってはいけません！！」

服部さんの提案で、「一緒に頂上に居た若者について戻ろう」ということになった。何しろ、この若者は身のこなしが軽快で、足の置き所も適確だ。気持ちも優しい若者のお陰で、何とか無事に戻ることが出来た。

服部さんはすっかり若者と意気投合してしまったようだ（写真最右端に写る若者）。



若者は、松山に住む祖父に会いに来たついでに石鎚山に登ったのだそうだ。心優しい好男子であった。



無事に天狗岳までの往復ができた。

歓喜の一枚



中島さんは、石鎚神社にお礼





続いて、服部さんも無事を感謝

天狗岳から戻った3人は昼食をとることにした。



根岸さんは、神社横で既に食事を済ませていた。



3人は、風を避けて岩陰で昼食

11時45分下山開始 計画よりも40分位早めに行動することが出来た。



未だ閉まっている石鎚小屋の脇を通過して、もと来た登山道に戻ることにした。





「二の鎖元」での意気軒高な2人

何しろここから、「二の鎖場」を登った実績がある。



第3ベンチで休憩

3人から恵んでもらった水を美味しく飲む根岸さん



根岸さんは、下山途中で足が釣りそうな予兆があって一寸休憩

その後大事に至らず、順調に下山





石鎚山では鳥の鳴き声があちこちで響き渡っていた。  
春になり、恋の相手を求めてオスが盛んにさえずっているようだ。



13時50分 無事に登山口に戻った。



石鎚神社土小屋遙拝殿で無事下山のお礼をした。

14時に土小屋を後にして中津溪谷に向かった。中津溪谷の「仁淀ブルー」を見る為であった。  
他の車がない道路を快調に走り、雨に遭わないうちに中津溪谷に着きそうだ。



ここから中島がレポート担当します。



15:35 旧名野川小学校に到着。  
ここに駐車して、  
【仁淀ブルー】を見に行きます。



すぐに中津溪谷の入り口がありました。



じゃーん、  
こちらが【仁淀ブルー】です。

#### ★仁淀ブルー★

総延長 124km に及ぶ清流で、国土交通省が発表する全国一級河川の水質ランキングでも上位に。その美しさは「仁淀ブルー」と称され、8月中旬～1月中旬に青さが際立つ。  
(ガイドブックより)

小雨&夕刻でもあったので、ちと残念。  
それでも透き通っていてキレイでした。



ここでおふざけ (笑)。 服部さん、力持ち！







15:56 ○紅葉瀧  
まで来ました。  
ここで引き返す  
ことにします。



竜神七福神は、  
3つ写真に収められました。



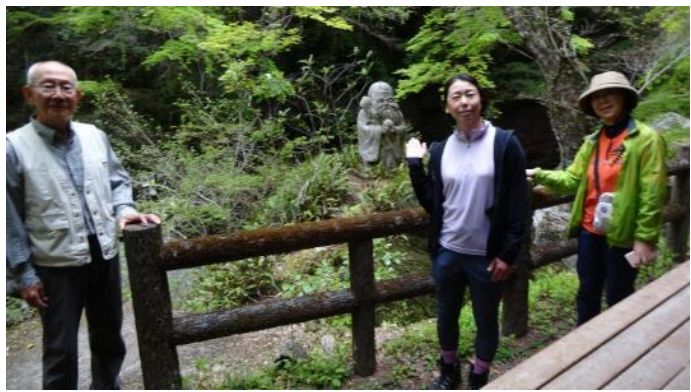
福祿寿



毘沙門天



弁財天



こいのぼりが沢山泳いでいました。  
16:07 高知市内に向けて出発します。







17:30 高知市内に到着。

吉松さん、服部さん、中島は、ウェルカムホテルに宿泊。

根岸さんは、高知龍馬ホテルに宿泊です。

※根岸さんは後から参加を決めた為、同じホテルの予約ができませんでした。

ウェルカムホテルには駐車場はなくて近くのコインパーキングにとめてください。とのことでしたが、高知龍馬ホテルには駐車場があるとHPにありました。よって、車は根岸さんをお願いすることにしました。

←左写真は、ウェルカムホテルにあった天然記念物土佐錦魚です。



駐車場の様子。

とはいえ、、、

コインパーキングだったのですね。

400円とお安くできました。

ありがとうございます。

今夜の夕食処「おおい」はお互いのホテルの真ん中ぐらいにあるので、現地集合としました。

夕食予約は 19:00 と時間があまりないので、ホテルの浴室で汗を流します。

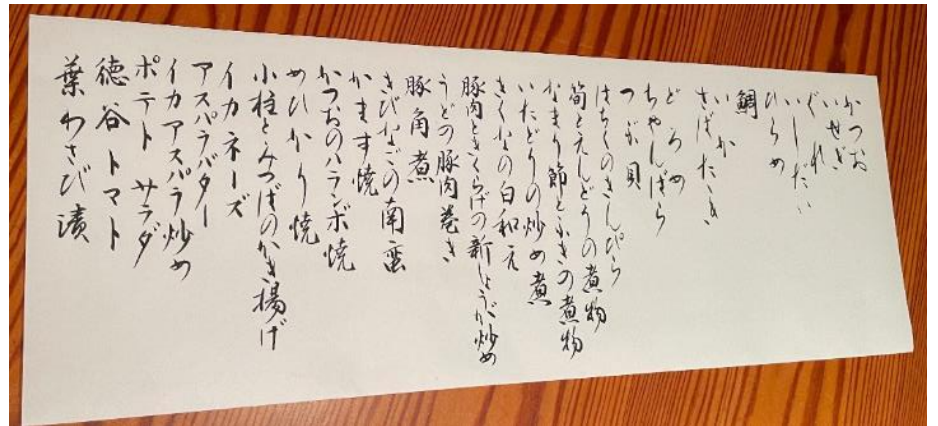






19:00 宴会開始です。

色々なメニューが並びます。さあ、何にしようかな～。



【おおい】吉松さんが候補に挙げてくれました。

S 社長（吉松さんが若いころにお世話になった電機店の社長さんだそうです。）にご紹介いただいたお店でカツオが美味しいです。一寸居酒屋風のようなのですが、女性も満足されるとのことです。



とりあえず、ビール



お通し：はちくのきんぴら

とりあえずビールで始まり、お通しには「はちくのきんぴら」これは美味しかったです！

カツオは塩とタレをとりあえず1人前を頼みましたが、これまた美味しくておかわりしました。食べたご馳走を全紹介です。

日本酒も桂月と色々頂きました。



どろめ



ポテトサラダ



筍とえんどうの煮物





塩カツオ



タレカツオ

そして、おかわり！



塩カツオ



タレカツオ



めひかり焼



にゅう麺



21:00 お開きです。 明日は、日曜日・佐川などを観光します。